

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600418		
法人名	伊勢温泉観光株式会社		
事業所名	グループホーム にのみの家		
所在地	三重県津市新家町1488		
自己評価作成日	令和元年10月28日	評価結果市町提出日	令和2年1月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2470600418-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和元年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、自然豊かな田園風景の広がる高台に立地、隣には光明寺というお寺があり、毎日の散歩コースにさせてもらっています。春には見事な桜が咲き、6月にはあじさいと季節を感じていただきながら散歩を楽しんでもらっています。また、お寺やお墓参りに来られる地域の方々にも優しく声を掛けていただき、時にはお花を頂いたり地域の方々との良い関係が築けています。フロア内は毎月の壁画を利用者様と一緒に作り、出来上がった作品を飾ったり、介護グループ全体で行う文化祭で展示して、他部署やご家族様に見て頂く機会など、季節を感じていただき温かみのある落ち着いた居場所づくりを心掛けています。また、季節ごとの行事でのお花見やいちご狩りでは、職員の手作り弁当を持って出掛けるなど、施設全体での合同行事も沢山あり、利用者様に楽しんで頂けるよう皆で頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣のお寺、ホームの周辺は竹林や多くの樹木があり、自然の季節感がある環境になっている。家族からは、このホームは家庭的な雰囲気があり職員はいつも笑顔で対応してくれ、利用者さんを良く理解して安心感があると喜びの声がある。職員は、常に本人に寄り添い希望に添えるように出来る限りの支援をしてサービスの質の向上に向けて日々努力をしている。このホームが、心の落ち着く場所、自分の親を入居させたいと思う気持ち、利用者・家族からここが最期の場所と言ってもらえるホームを作り上げるように努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	和願愛語を基本に、実践理念として利用者本位と掲げているが、ある程度実践出来てきたのではないかと感じており、現状をベースに新たな理念を検討しているが、中々決まらずに模索している最中です。	理念についてその場その場で気が付いた事は毎月の会議で振り返り、いつも利用者とお互い笑顔で温かくやさしい言葉で接すればきっと笑顔が返ってくると思っている。また、理念が来訪する方や職員が良く気付く様に、表現方法を作り直し玄関に掲示して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で地域と繋がりを持ち、昨年の停電の時には、お寺の総代が付近の木を伐採して下さったり、また時にはお寺に繋がる竹を職員が伐採したり、お互いに協力して関係を築いていこうとしている。また最寄りの認知症の住民への気配りと、夜間に出歩いている時は、連絡するよう連携を取っている。	地域住民がお墓参りの帰りに寄ってくれたり、果物・野菜・花を差し入れてくれる。散歩時には出会った住民と挨拶・掛けをしたり、中学生の職場体験の来訪があったり地域の方へ駐車場を提供もしている。お餅を作った時は近所に配り、利用者もいきいきサロン・老人会に参加しており、日頃から交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の意見交換をしたり、地域にお住まいの認知症の方への対応や、夜間出歩いていた場合などの声掛けのお願いをされたり、出来る限り地域の貢献に役立つよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、近況の報告やホームでのイベントに参加して頂き、体験して頂いている。また桃園地区の「元きつず」という小学生と担任の方に来訪して頂き、交流をや認知症の理解を深める活動を行い、意見交換しながら、サービスの向上に活かしている。	自治会長・民生委員・地域包括センター・家族が参加し、入居者状況・行事報告を行ない、奇数月毎に年6回、開催している。	運営推進会議は事業所の理解と支援を得る為の機会であり、身近な事・相談・住民の協力・困り事等、知見者・見識者等の参加を促し事業所内外の多数広いメンバーで、意見交換の場とし参加者のいろんな意見の入った会議録の作成を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	諸々の手続きや、時には介護保険課の担当の方への質問等を電話にて連絡したり、集団指導などで会った際には声を掛け少しでも密になれるよう努めている。	普段は介護の書類届けや相談に行っているが、市からは生活保護者の受け入れ要請があったり、介護事業所の集団指導等に参加し協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置して一年半が過ぎましたが、意識していない表現や言動がまだあると感じており、再度身体拘束と虐待防止について定期研修を実施しながら理解を深めている。	現在2名の身体拘束を実施しているが、家族に同意を得て身体拘束委員会で拘束をしない解除の検討をしている。ケアマネジャーが拘束・虐待の廃止・言葉の暴力の資料を揃えて年4回、テーマを設け職員会議で取り上げ、拘束をしないケアに取り組むように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に4度の内部研修を実施。言葉での虐待にも気を付け、気になる言動がある時は、その都度毎月の会議で議題として上げたり、紙面で伝えたりして虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームでも制度を利用している方がおり、職員も年々理解が深まってきているが、まだまだ理解が足りない所は、内部研修等で再度理解を深めている最中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書は読み上げ、質疑応答している。また、変更がある際は紙面やその場で説明して納得頂いた上で、署名押印をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口も設置しているが、利用者様やご家族様が運営に関する意見も無い状態で、会話の中から得た要望等を少しでも運営に反映して行く方向で検討しております。	利用者からは夜勤時・入浴時の会話から聞き取り、家族からは携帯電話のラインを利用したり、毎月送る新聞や面会時に聞いたりしている。出された意見はカルテに記入し職員間で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談での聴き取りや、毎月の職員会議での意見交換等はしており、その中で出た会話など少しでも反映出来る方向で前向きに検討したり、代表者に伝えたりしている。	その都度、気になった事・改善事項等を直接聞く機会が多いが、月1回の職員会議、年1回の個人面談での意見提起もある。出された意見は管理者で検討し反映させている。最近では職員の詰め所の環境改善の提案が出ており実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	少しでも働き易い環境になる努力をし、管理者は代表者に個人面談の結果を報告等して、給料水準等に反映している。また年に2回他部署との合同イベントを実施して、日々のやりがいに繋がるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月実施。外部研修は年に4～5回程度行っている。また、資格取得にかかる費用を会社が負担するなどの取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一職員が交流する時間は中々無いが、他施設を見学した際や、特別養護老人ホームの申込みに行った際に、意見交換をしてサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の不安を取り除きながら信頼関係を築き、本人の話を傾聴するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、家族様からよく話を聞き信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを進めていく中で入所サービスだけに限定せず、家族様の状況を確認しながら適切な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族より長い時間を一緒に過ごす訳ですので、より良い関係が築けるよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の間に入り、より良い関係を保てるよう取り組んでいる。月1回の新聞にて、近況も報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴を知り、馴染みの人や場所を大切に、できる限り支援できるよう努めている。	電話をかけたたり年賀状を出す方、家族の協力で実家に帰ったりお墓参り・法事、同窓会・理容室へ出掛けたりしている。散歩時は隣のお寺にお墓参りに来る住民と声掛け挨拶を交わしている。家族の協力を得ながら馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることで孤立することのないよう、より良い関係性が築けるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、必要に応じて経過をフォローし出来る限り支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の話を傾聴するのはもちろん、本人が安心して話せる場を作り、思いを尊重した支援に取り組んでいる。	日常的な利用者との会話・傾聴・表情・態度から察し、時に夜勤時や入浴時の1対1の時に希望・意向・以前の暮らし方等が聞かれる。聞き取った意向・希望はケアプランに活かしたり、カルテに記入し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前よりアセスメントし、本人、家族と十分に話し合い理解し、出来る限り以前の生活環境を変えないよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日接している中での気づき、利用者様の変化を見落とさない眼を養い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議で計画作成者を中心にモニタリングを行い、家族、本人の希望や意見を聴き、本人本位の計画作成に努めている。	面会時に家族と話し合い意向等を聞き取り、モニタリングを3ヶ月毎に職員が行ない評価している。医師の意見や、家族の意向に沿った介護計画を全職員で毎月、職員会議を行ない3ヶ月毎に見直しをして現状に添った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践の中での気づき、特に変化を記録し職員間で共有することで、その後の支援に繋げ活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービスの多機能化を進めるためには体制を整え、知識、技術の習得にも取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の情報を収集し、必要時に活用できる様に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の希望を大切に、疑問な点があれば相談するなど、かかりつけ医との連携強化を図っている。	かかりつけ医は16名、協力医は11名であるが、協力医からは月2回の訪問診療がある。受診は基本的には家族に依頼している。また、歯科衛生士が週1回口腔ケアに来訪している。受診病院は24時間対応が無く現在救急コールセンターに連絡し対応をしているが今後、訪問看護ステーションとの契約を考えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は配置してないが、利用者の高齢化に伴い看護職の配置も検討している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院は職員が対応することが多く、施設での状況を詳しく説明し情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状看取りは行っていないので、重度化した場合は、かかりつけ医や医療機関、家族様と相談しながら進めています。	入居時に家族からは看取りの希望はあるが、事業所としては医療体制が整っていないので看取りは難しいと話している。その時期には家族と相談し対応策を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導や内部研修をもとに、AEDや応急手当、初期対応の訓練を定期的に行い、事故や急変時には対応に当たっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害別のマニュアルに沿って、臨機応変に対応できるよう周知徹底に努めており、非常食等も少ないながら備蓄管理している。また、地域の住民へのお願いや、消防団に声掛けなどしております。	火災想定で避難・消火・通報訓練を、避難場所を駐車場と決め防火管理者の指示で年2回している。備蓄(非常用食品・水・缶詰等)・非常用備品は(ヘルメット・利用者の防災頭巾に非常用品を入れ、LED電灯・ランタン)が用意してある。	より安全な避難に繋げる為、消防署の立ち合いで2階、3階からの避難方法、地域の方にも協力要請を行なう等、マニュアルを使用した各災害別の訓練を実施する事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	和顔・愛語を念頭に置いて実践し、人格を無視するような言動はなくすよう取り組んでいます。	人格を尊重し誇りを損なわないように、また、職員の都合で支援をしない対応に気を付け、笑顔でやさしい言葉づかいで接している。トイレ・入浴・着替え時等、ドアの開閉に注意を払い同性介助にも心掛けする対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を聞き取る余裕を持ち、思いを聞いたら出来る限り実行に移すよう取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で利用者様の生活リズムを崩すことがあってはいけませんので、一人一人のペースに合わせた支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人差はあるものの、清潔を保つことにつながるので支援しています。定期的に散髪もしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ペーストや超きざみ等、食事形態には個人差がありますが、毎日の生活の中で一番の楽しみであり、明るく楽しい雰囲気づくりを心掛けている。	食材センターのメニューに合わせて食材を取り寄せ、職員で調理しているので家庭の味が楽しめる。トロミ食・ペースト状食の方には食材の内容をきちんと説明し、誕生日には希望に添った食事を用意し家族と一緒に楽しんでいる。お好み焼き・たこ焼き・ホットケーキ等を利用者と作ったり、外出時は弁当等を持参し楽しい食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自力での摂取が困難な方もおられるが、医師の指導により、食事量水分量の記録に努め適量摂取を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前を習慣として行っているが、肺炎リスクの高い方は口腔ティッシュで毎食後ケアしており、訪問歯科医に週1で口腔内清掃を依頼している方もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けや誘導することで、トイレで排泄してもらうように支援している。立位が困難でどうしても必要な方は、オムツを使用していたいております。	定期的に(起床・食事前・就寝前等)声掛けし、トイレに誘導している。排泄チェック表を利用し排泄パターンを掴み、その都度その人の状態を見て声掛けしトイレでの排泄や自立に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬物には頼らず、水分摂取や運動への働きかけをし、おやつにオリゴ糖を加えるなどの工夫をしている。どうしても必要な時はかかりつけ医に相談し、便秘薬を処方してもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が好きな方、嫌いな方で個人差はあるが、できる限り本人の希望を聞きながら入浴してもらっている。	週3回、午後より入浴支援があるが入浴拒否の方は無理強いしないで、時間・日を変えて入浴をしている。入浴中は昔話等をして、ゆったりと入浴出来る時間を個々の対応で考え支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心してゆっくり休んでいただけるように、寝具、照明、室温調節に配慮しています。「寝られない」と訴えられる利用者様には寄り添い、話し相手になっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師の指導助言をもらい、薬の効果や副作用について学び、一人一人が使用している薬を把握し誤薬等が無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で毎日のレクリエーションを工夫したり、行事をしたり洗濯たたみやテーブル拭きなどの役割も持っていていただきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見、いちご狩り、夏祭り、文化祭、外食などの外出を支援しています。家族様と個人的に外出される方もみえます。温泉に行きたいとの希望が多く、実現するには困難な事が沢山あるが、前向きに検討し実現できるようにしたいと思う。	外出計画に季節の花見を取り入れ(梅・さくら・紫陽花・藤・イチゴ狩り等)また、法人の夏祭り・文化祭に参加したり、外食に(回転寿司・喫茶店)に出掛けている。家族の協力で実家に帰ったり病院の受診があり、また、玄関にある椅子に座り日光浴をしたり農園で花・野菜を作り収穫して外気浴を楽しむように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、しまい忘れや失くされるといけないので金庫に預かっていますが、外出時に買い物するときはお金を所持してもらい自分で支払っていただくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、訴えのあるときには自由にしてもらっています。年末には年賀状を書いて家族さんに送ってもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は快適に過ごせるよう清潔にし、音や光、空調などこまめに調整しています。季節に合った壁画やカレンダーと一緒に作り季節を感じてもらっている。	居室・居間等、共有空間に材木を多く使い家庭のような温かさが感じる作りとなっている。利用者で作った季節感を取り入れた作品が掲示しており、常に温度・湿度に気を配り感染予防にも取り組んでいる。利用者は畳スペース、食堂の椅子に座り新聞、テレビを見て一日をゆったりと過ごす空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い空間は難しいが、一人一人の居場所は確保できている。気の合う方との空間も確保出来ています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自由に使ってもらい、使いなれた物やなじみの物を持ち込んでもらい、その人らしい雰囲気が漂っている。	各居室には、ベッド・大きな棚台・洗面台・トイレが備えられており、利用者からは喜ばれている。テレビ・筆筒椅子机、家族の写真が持ち込まれ、掃除が行き届いておりすっきりとした居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	3階建ての施設ですが、フロア内は段差もなく間隔の広い手すり等安心安全で快適に過ごしてもらっています。		